

(お知らせ)

定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所5号機タービン建屋における
温風送風機内からの発煙に関する原因と対策について

平成19年4月12日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当所5号機(沸騰水型、定格出力110万キロワット)は第12回定期検査中ですが、3月22日午前10時21分頃、タービン建屋地下2階にある電気油圧式制御装置*1室において火災報知器が発報いたしました。当該室では、協力企業の作業員が油タンクを外側から暖めるための温風送風機*2に接続している電気ケーブルの電流測定作業を行っておりましたが、温風送風機内からの発煙を確認したことから、速やかに消防署へ通報するとともに初期消火を実施いたしました。その後、消防署の現場確認により、午前11時13分に鎮火が確認されました。

(平成19年3月22日お知らせ済み)

調査の結果、原因は、電流測定作業時に、温風送風機内のヒーター過熱防止用の温度制御スイッチを切っていたこと、ならびにヒーターの熱を取り除くファンの電源を停止させていたことから、ヒーター温度が通常使用時より上昇し、ヒーター付近の耐熱ケーブルの被覆が許容温度以上に加熱されて発煙したものと推定いたしました。

対策として、当該作業を行う際には、温風送風機内のヒーター過熱防止用の温度制御装置が動作する状態にしておくこと、ならびにファンを起動させた状態で行うよう試験手順を見直すことといたします。また、同内容を施工要領書などに反映することにより、火災発生防止に努めてまいります。

以上

*1: 電気油圧式制御装置

原子炉で発生した蒸気(主蒸気)圧力とタービン回転数を一定に保つため、電気信号により高圧の油を使って主タービンに送る蒸気量などを制御する装置。

*2: 温風送風機

ヘアードライヤーと同様に、電気抵抗で昇温したヒーターの熱をファンで送風する構造であり、原子炉起動時などに油温の下がっている油タンクを外側から暖める装置(直径:約60cm)。